

## 薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 30 年 12 月）

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

火山性地震は少ない状態でした。火山性微動は観測されていません。  
火山活動に特段の変化はありませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いていますので、火山灰等が噴出する可能性があります。火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体  
が実施している立入規制等に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況（図 1～4、図 5 - ）

白色の噴煙が最高で火口縁上 1,200m（11 月：1,200m）まで上がりました。

硫黄岳山頂火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映<sup>1)</sup>を時々観測しました。

19 日に九州地方整備局及び近畿地方整備局の協力により上空からの観測を実施しました。火口周辺や山腹からは前回（2017 年 12 月 14 日）の観測と同様、噴気が上がっているのを確認しましたが、火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

- ・地震や微動の発生状況（図 5 - 、図 6）

火山性地震の月回数は 279 回（11 月：257 回）と少ない状態でした。

火山性微動は 2018 年 3 月 17 日以降、観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 7、図 8）

GNSS<sup>2)</sup>連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 薩摩硫黄島 噴煙の状況（12 月 20 日、岩ノ上監視カメラによる）

< 12 月の状況 >

白色の噴煙が最高で火口縁上 1,200m（11 月：1,200m）まで上がりました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 31 年 1 月分）は平成 31 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び三島村のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

- 1) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 2 薩摩硫黄島 硫黄岳西側山腹の状況

硫黄岳西側山腹（赤破線内）では、前回（2017 年 12 月 14 日）の観測と同様に、噴気が上がっているのを確認しましたが、火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。



図 3 薩摩硫黄島 硫黄岳北側山腹の状況

硫黄岳北側山腹（赤破線内）では、前回（2017 年 12 月 14 日）の観測と同様に、噴気が上がっているのを確認しましたが、火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

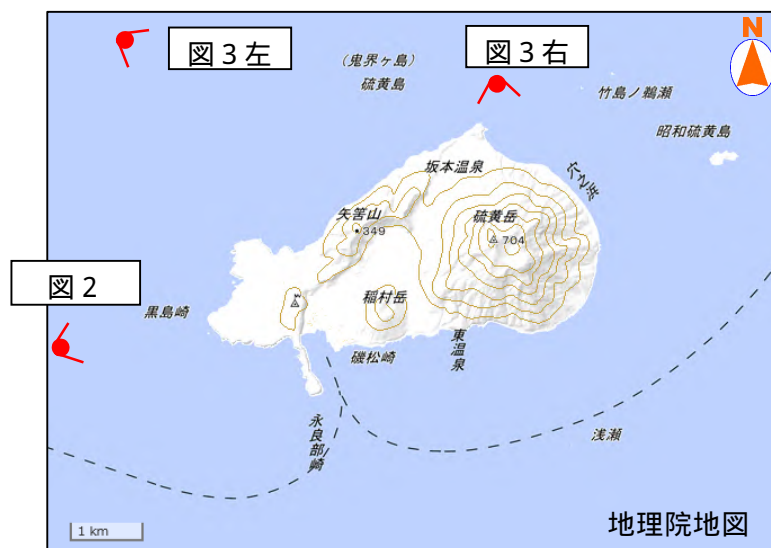


図 4 薩摩硫黄島 図 2、図 3 の撮影位置図（：撮影位置と撮影方向を示す。）

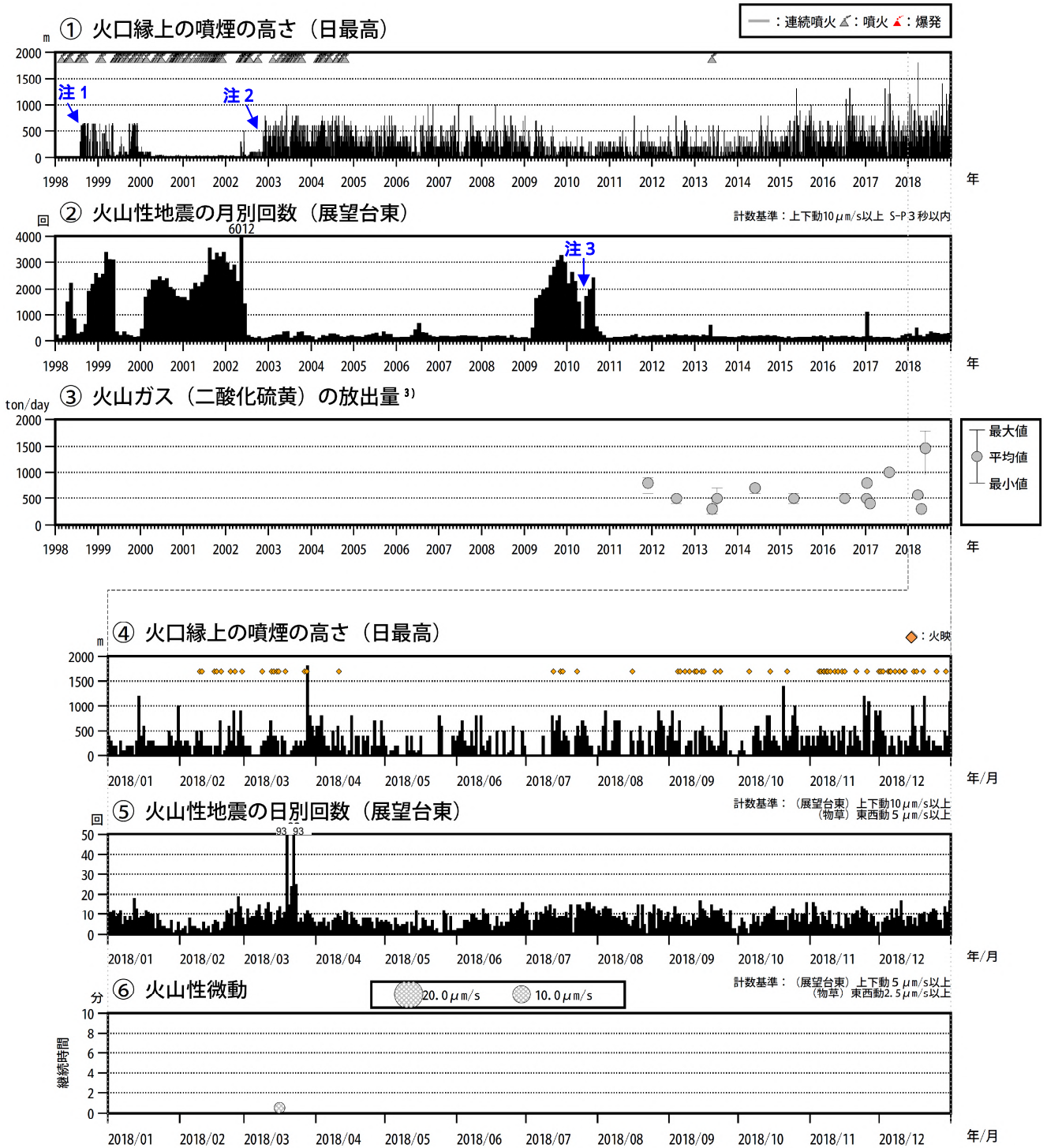


図 5 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998 年 1 月～2018 年 12 月）

< 12 月の状況 >

- ・ 白色の噴煙が最高で火口縁上 1,200m（11 月：1,200m）まで上がりました。
- ・ 夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測しました。
- ・ 火山性地震の月回数は 279 回（11 月：257 回）と少ない状態でした。
- ・ 火山性微動は観測されていません。

注 1 1998 年 8 月 1 日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注 2 2002 年 11 月 16 日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注 3 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

3) 火口から放出される火山ガスはマグマが浅部へ上昇すると放出量が増加します。火山ガスの成分はマグマに溶けていた水、二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などです。気象庁ではこれら火山ガス成分のうち、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。

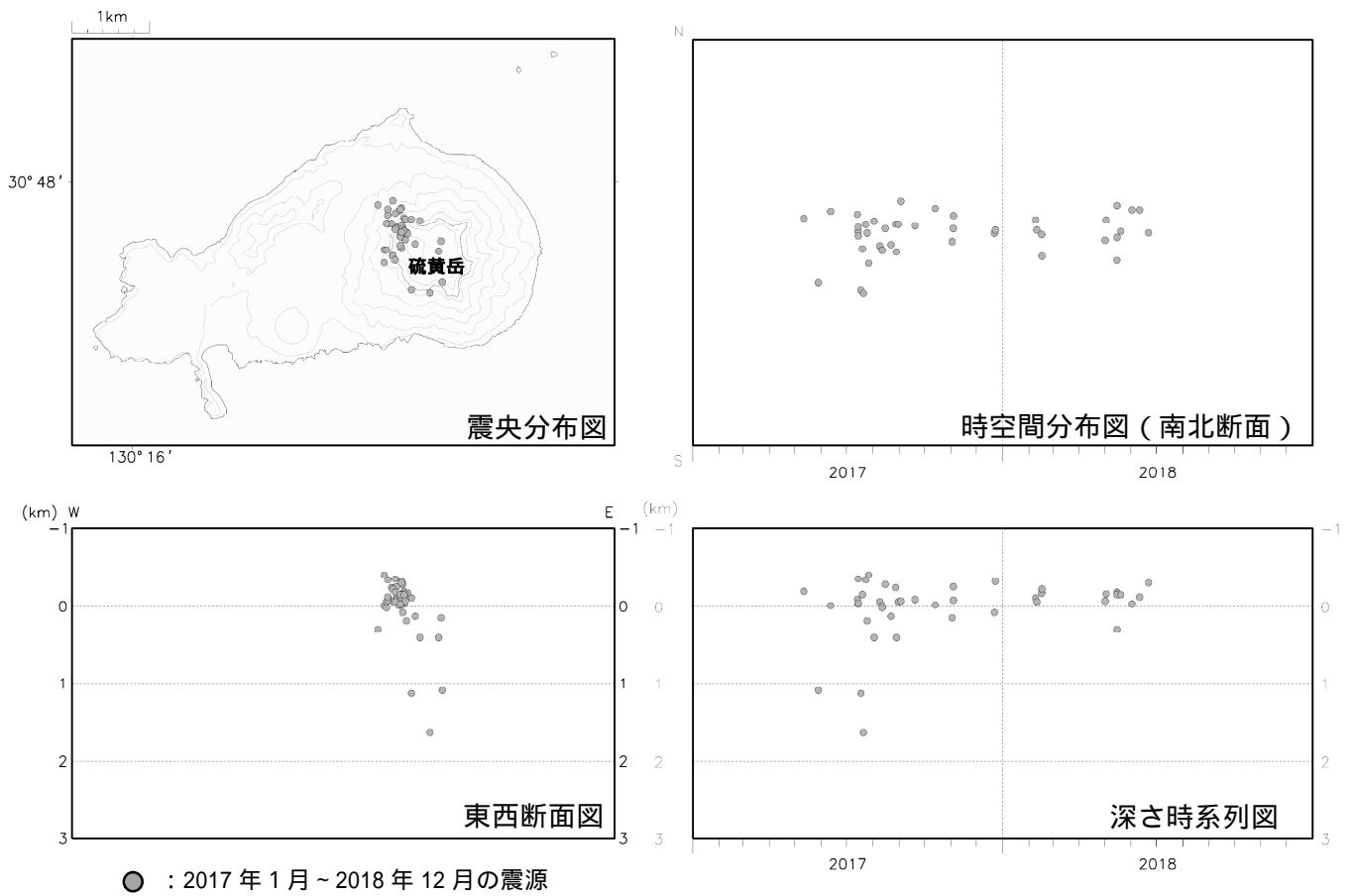


図 6 薩摩硫黄島 火山性地震の震源分布図（2017 年 1 月 ~ 2018 年 12 月）

< 12 月の状況 >

震源が求まった火山性地震はありませんでした。



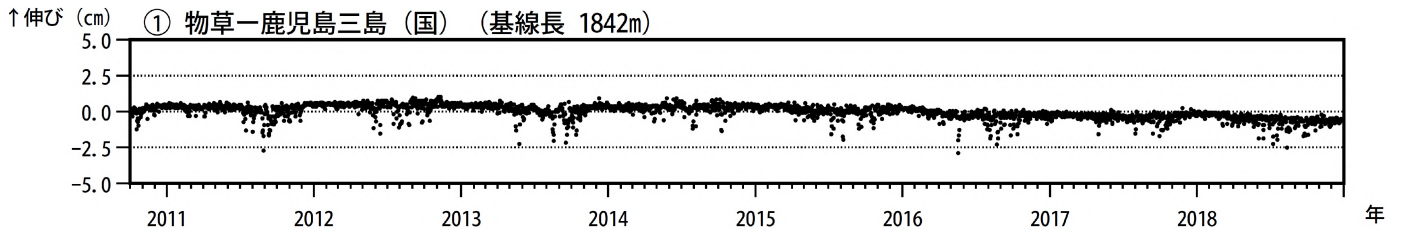


図 7 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2018 年 12 月）

火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図 8 の ① に対応しています。

（国）：国土地理院

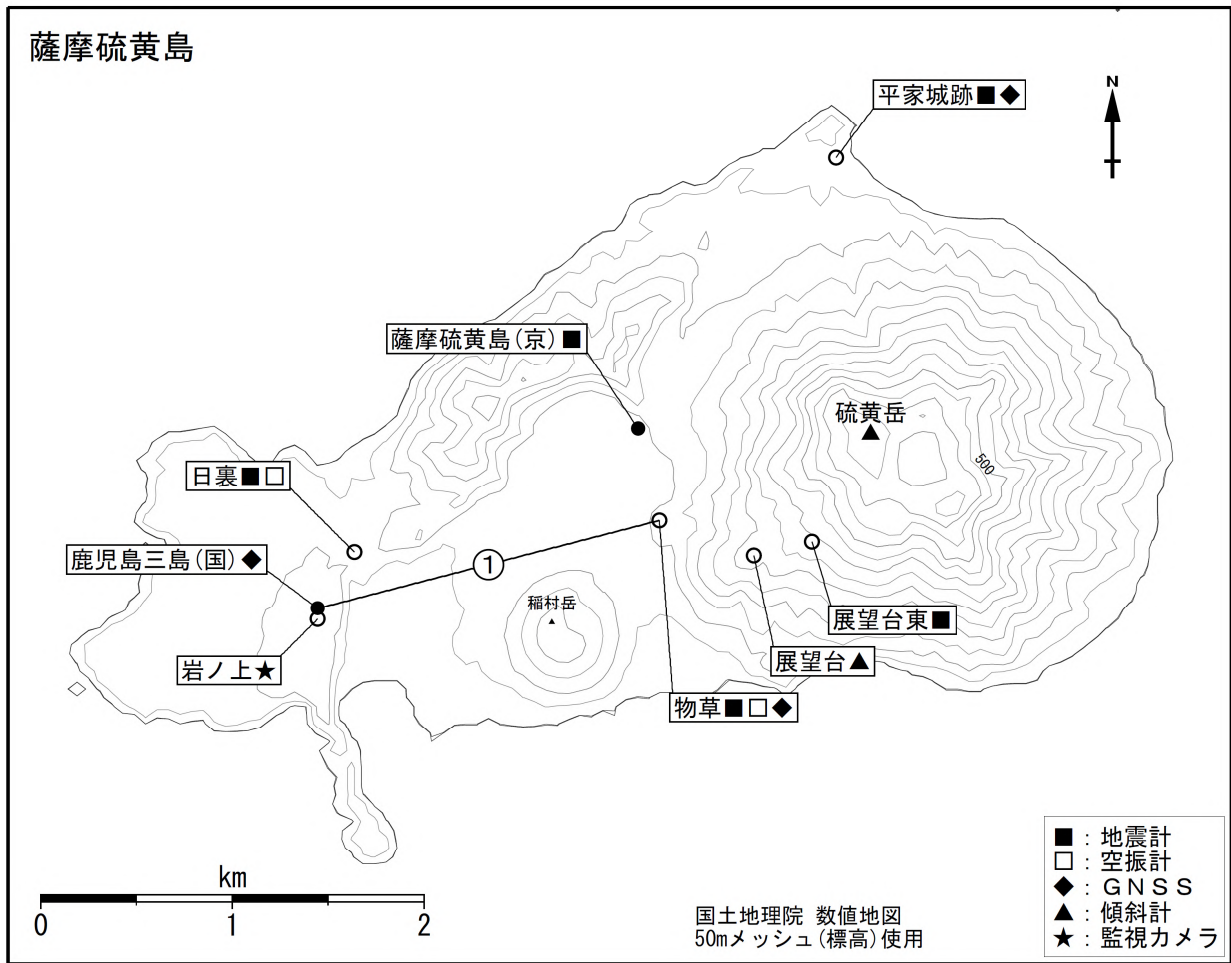


図 8 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸（ ）は気象庁、小さな黒丸（ ）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（京）：京都大学